

令和2年度 第1回

丹波市地域公共交通活性化協議会
(丹波市地域公共交通会議)

議 事 録

閱覽用

1 開催日時 令和2年7月17日(金) 午後2時30分 開会

2 開催場所 丹波市立柏原住民センター

3 出席者 (委員)

北川博巳	会長	大野亮祐	副会長
本間和典	委員	蘆田長門	委員
足立利昌	委員	堂本喜代和	委員
田橋一	委員	石田光	委員
三宅広昭	委員	瀬川雅史	委員
木寺章	委員	芦田正吾	委員
長田貴	委員	里充	委員
近藤巧	委員		

委員15名出席

(オブザーバー) 三宅豊文

(デマンド(予約)型乗合タクシー運営者) 藤本泰男

4 欠席者 水田節男 委員 塩谷泰久 委員

5 会議に付した議題及び案件とその内容

1) 開 会

2) 会長あいさつ

3) 議 事

- (1) デマンド交通の状況分析について
- (2) 路線バスの利用状況について
- (3) 令和元年度の実施事業及び決算について
- (4) 令和2年度の事業案及び予算案について
- (5) 令和元年7月のバス路線再編後における公共交通体系について
- (6) 福祉による移動施策について
- (7) その他

4) 閉 会

(事務局)

只今から令和2年度第1回丹波市地域公共交通活性化協議会(丹波市地域公共交通会議)を開催させていただきます。委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、また新型コロナウイルスの関係で大変出にくい中、ご出席を頂きまして誠に有難うございます。会を進める前に確認とご連絡を申し上げます。新型コロナウイルス感染症予防対策としまして、休憩は適宜とらせて頂きますが、それとは別に、約1時間毎に職員が窓を開けて換気を行いますので、あらかじめご了承を頂きたいと思います。また、委員の皆様には事前に資料を送付させて頂いておりますが、持ち合わせておられない方はございませんでしょうか。本日はお手元に別途資料も配布させて頂いており、その中の、丹波市が令和元年11月に作成しました「丹波市まちづくりビジョン」の本編と概要版につきましては、公共交通に関する内容が記載されておりますのでご覧頂ければと思います。また、本日の会議の議事録作成のために録音をさせて頂きますので、ご了承願います。

それでは、令和2年度第1回の開催ですので、改めまして本会の委員の皆様をご紹介させていただきます。なお、公益社団法人 兵庫県バス協会 専務理事 水田節男様、丹波市身体障害者福祉協議会 会長 塩谷泰久様につきましては、事前に欠席の連絡を受けております。

[委員名簿により各委員を紹介]

(事務局)

申し遅れましたが、丹波市企画総務部未来創造課で、事務局を担当させて頂いております藤浦と申します。丹波市では組織改編があり、昨年より課名が変わっておりますが、引き続きよろしくお願い致します。なお、丹波市から企画総務部及び健康福祉部の担当職員が出席しておりますが、それぞれ発言がある際に自己紹介をさせていただきます。

それでは、以降の進行につきましては会長をお願い致します。

(会長)

皆さんこんにちは。本年度の第1回の地域公共交通活性化協議会が開催できることになり大変喜ばしく思っております。新型コロナウイルスの影響で、前回の年度末の会議が中止になるなど、いろいろなことがありました。その間に、交通の利用者がかなり減って、その中でどのように活性化を考えていくのか、非常に難しい宿題を頂いている様な気がしております。それから、丹波市まちづくりビジョンですが、地域公共交通活性化協議会の会長として参加をさせて頂く中で、公共交通はいろいろなまちとまちをつなぐ非常に大事な乗り物で、それぞれの公共交通が連携する等、整備していくということの大切さを述べさせて頂きましたので、お帰りになってから読んで頂ければ幸いです。

それでは、議事を進めます。まずは①デマンド交通の状況分析について事務局より説明をお願いします。

[デマンド交通の状況分析について説明 資料：別紙 1～別紙 15]

(会長)

有難うございます。特に、生活交通としてのデマンドタクシーはやはり大事であると改めて痛感するところがありました。実際に、令和 2 年 3 月と前年 3 月を比べた場合、新型コロナウイルスの影響があったけれども、利用の落ち込みが少なかったという報告だったと思います。何かご質問があればお願い致します。

生活交通としてのデマンドタクシーの重要性が改めて確認出来たことと、令和元年度は死亡者が少なかったということもあるのか実利用者数が増えています。それから、リピーター率もある程度向上しているようなので、安定した数字になり、取り戻してきているのではないかと思います。一方で、昨年度の上位利用者については、お亡くなりになったのか上位者の方は少なくなり、その代りに平均的に使っている方の割合が高くなっていると思います。それから、以前から 9 時便、10 時便の利用がかなり多い状況ですが、それが少し減って、12 時便、2 時便、3 時便の利用が若干伸びているという気もするのですが、これは実際にはどうですか。午前中の利用が減って、その代りに午後に利用する人が増えてきたのか、何かそういう感触みたいなものをお持ちでしたら、お聞かせ頂きたいです。

(事務局)

詳細分析までは出来ていないのですが、オペレーターが予約の段階で傾向を把握していることも考えられます。

(会長)

こういう傾向が続くようでしたら、心に留めて頂いて、何かあれば知らせて頂きたいと思えます。これはデマンドタクシーの大事な特色だと思えますのでよろしくお願ひします。

皆さん他に何かございますか。

無いようですので、事務局からの報告といたします。

それでは、次に②路線バスの利用状況について事務局より説明をお願いします。

[路線バスの利用状況について説明 資料：別紙 16～別紙 17]

(会長)

有難うございます。バスは確かに大変な状況だと思えます。これにつきましてはバス事業者さんにコメントを頂ければと思えます。

(委員)

まず、資料の利用状況については、平成 30 年度から令和元年度にかけて、急激な落ち込

みとなっています。これは平成30年度までの集計方法と異なり、令和元年度につきましては、ICカードによる乗車人数は実数値がデータとして出るので、ICの部門は全部実数を使っており、現金での乗車人数は年間換算のデータを使っているということです。

ただ、傾向としては利用者数の減少が続いている状況ですが、先程、事務局の説明でもありましたように、丹波市の路線バス通学定期券購入補助や、路線バス乗車券（ニコパ）購入助成制度の効果も令和2年3月、4月あたりから表れておりますので、今後また少し上向くという期待をしております。また、この表は令和元年9月までの数なので、7月に丹波医療センターが開院した効果が徐々にこれからのデータに表れてくるかと思えます。各種補助制度で利用促進をして頂いているのですが、現状は、新型コロナウイルスの影響で、乗合い事業につきましては、3月頃から非常に影響が出ております。そして4月に緊急事態宣言が発出された後は、本当に利用が落ち込み、4月、5月につきましては、現金でお支払いのお客様、ICのお客様の部分が、対前年比で3割位、7割位落ちたという現状です。定期券の売り上げを足しても、ほぼ前年の半分位という現状です。ただ、6月に入りまして、2割5分落ち位に戻ってきていると見ております。しかし、また感染者が増加している状況もございますので、なかなか厳しい状況がもう少し続くのではと見ております。

（会長）

有難うございます。何かご質問等があればお願い致します。

よろしいですか。

まずは、最近では調査手法が大分変わってきたので、以前のどこのあたりと比較すればいいのか結構難しいところがあるということと、どうしても低く値が出るという話もよく聞きます。それから、丹波医療センターは令和元年7月の開院なので、あまりその数字が反映されていないというのは確かにそうだと思います。これについては引き続き注視していければいいと思います。

新型コロナウイルスの関係で、外出を7割8割減らしましょうというような話があって、影響が数字に顕著に出ています。利用者数の回復については、通学の便として使われていまして、医療センター便も結構回復してきているのではないかと思います。

他に何かございますか。路線バスの利用状況についてはよろしいですね。

では、次に③令和元年度の実施事業及び決算について事務局より説明をお願いします。

[令和元年度の実施事業及び決算について説明 資料：別紙18～別紙20]

（会長）

有難うございます。決算の報告がございましたので、監査員の方から監査報告をお願い致します。

(委員)

監査報告をさせていただきます。令和2年5月8日に監査員2名で監査を行いましたところ、令和元年度会計帳簿及び収支決算書につきまして、通帳、帳簿並びに関係書類等を厳正に確認させていただいた結果、適正かつ正確な処理がなされておりましたことを認め、ここにご報告を申し上げます。

(会長)

有難うございます。何かご質問等があればお願い致します。

よろしいですか。

では、この件についてご承認頂けますでしょうか。

特にご意見はないので異議なしということですのでよろしいですね。令和元年度の実施事業及び決算については承認されました。有難うございました。

それでは、次に④令和2年度の事業案及び予算案について事務局より説明をお願いします。

[令和2年度の事業案及び予算案について説明 資料：別紙21～別紙23]

(会長)

本年度の事業案をご説明頂きました。一つはデマンドタクシー車両で電子マネーを使用できるようにすることですね。それから、予算については昨年とほぼ同額ということです。

電子マネーについてはどうしても費用はかかるのですが、これからはキャッシュレス化等、将来を見据えて先行的に投資していこうというところもあるのではないかと思います。

これについて、タクシー業者さんいかがでしょうか。電子マネーについて現況等確認をできればと思います。

(委員)

現在、丹波市内のほとんどのタクシー事業者は電子マネー決済を行っていません。丹波市デマンド会で指定管理を受けている各市営駐車場に、令和元年10月に電子マネー対応の精算機が導入されました。導入後は3割～4割の方が電子マネーを使われています。我々タクシー事業者に関しては、今のところ、電子マネー決済はほとんど行っていませんが、デマンドタクシー車両で始めるということになると、ドライバーに講習会を開いて頂き、タクシーへの導入も検討したいと思います。

(会長)

有難うございます。今年度デマンドタクシー車両に電子マネー決済機が導入されることになりますので、事務局と調整して頂ければと思います。ただ、ご高齢の方がどこまで利用

されるかということもありますけれども、これからの流れを考えると大事なことなので、引き続き注視していきたいと思っております。その他何かございますか。

(委員)

新型コロナウイルスの関係でお尋ねします。今のところは、デマンドタクシーのご利用者、各運行会社従業員とも感染の情報はありませんが、消毒等を徹底して対策しているので、何とかなっているのではと思います。本年3月以降は市から、消毒液等を提供して頂いております。毎日のニュースを見ていると、この状況が常態化すると思います。1年程度で収まるのか先行き不透明です。この予算案のなかには、消毒その他の感染防止に対する予算がありませんが、いかがでしょうか。これまでのように市から消毒液等を提供してもらえるのでしょうか。こういう状態が続いた場合、運行事業者が費用負担するのなら、ある程度の運行費の上乗せを頂きたいと思うのですが、どのようにお考えですか。

(事務局)

感染症防止に関する予算立てとしては、具体的な予算項目はありませんが、消耗品費を予算執行させていただき、デマンド予約センターのオペレーターが簡易のマスクを作成しています。デマンドタクシー利用の際にはマスクの着用を呼びかけておりますが、家に忘れて取りに戻られるお客様もあると聞いており、臨時用に輪ゴムとキッチンペーパーを使った簡易の紙マスクを各車両に搭載する予定で、この取り組みも感染予防に関する部分であります。

また、市としましても、限られた数量ではありますが、これまでに幾度かマスクと消毒液の配布をさせて頂いたところでございます。お客様やドライバーの方にも、安心して乗車、運行していただけるような環境を提供できるように努めて参りたいと考えております。

(会長)

一応は消耗品費の中に予算が少しあるということですね。最近、デマンドタクシーもさることながら、備蓄をどうするかという課題があります。2か月後までの分を備蓄しましょうとか。そういう意味では、常に連携を取りながらやっていかないといけないと思います。

また、丹波健康福祉事務所にも指導を仰ぎながら、いろいろ連携を取りながらできればと思います。公共交通は連携する乗り物と言ってきましたけれども、今こそ、そういう新しい連携を作って頂ければと思います。よろしく申し上げます。

それから、一つ決裁事項があります。デマンドタクシー車両の電子マネー決済機の導入に関して、本協議会で協議が調っていることの証明書についての話があったと思います。これは、兵庫陸運部への登録で、「運賃（料金）の種類、額及び適用方法」の項目において「支払の方法は回数券または現金によること」と明示されているので、電子マネー決済機の導入にあたり、この表示を削除するというご提案を頂きました。この件について、本協議会にお

いて承認を頂き、協議が調っていることの証明書を出していかという決裁を取らなければいけません。

これにつきましてはよろしいですか。

(異議なし)

承認ということでよろしいですね。では、事務局の方でその証明書を出して頂くようお願い致します。これで電子マネーが使えるようになる一つの段階になるということですのでよろしくお願い致します。

他に何かご質問等があればお願い致します。

よろしいですか。

では、議事の④についてご承認頂けますでしょうか。

特にご意見はないので異議なしということでよろしいですね。令和 2 年度の事業案及び予算案については承認されました。有難うございました。

それでは、次に⑤令和元年 7 月のバス路線再編後における公共交通体系についてです。「丹波市における公共交通システムのあり方に関する検証（案）」ということで、昨年度から協議を始め、文書としてまとめました。これにつきましては、私もある程度は事務局と共に作ってきた経緯がございます。令和元年 7 月にバス路線の再編を行い、丹波市の公共交通体系を作っていくということで、令和元年度第 1 回の丹波市地域公共交通活性化協議会で、皆さんにこういうものを作っていくということをお諮りしました。2 回目の協議会では、デマンドタクシーの降車状況について、市内の医療機関での降車が多いことや、それに加えて駅やバス停等の公共交通施設で降車して乗り換えて行かれるという状況もあるとの報告があり、そういうご意見等を頂きながら、当局で取りまとめていこうということでした。

ただ、コロナ禍の影響で、今日の時点で協議出来ていませんでしたので、今後の方向性を詰めていくために、現状と課題についてまとめた案を出して頂きました。デマンドタクシーについてはいろいろな課題もありますので、皆さんにご意見を頂きながら、しっかり整理して作っていきたいと思います。

それでは、⑤令和元年 7 月のバス路線再編後における公共交通体系について事務局より説明をお願いします。

[令和元年 7 月のバス路線再編後における公共交通体系について説明 資料：別添 1]

(会長)

有難うございます。思い返してみると、丹波市のデマンドタクシーは平成 23 年 2 月に運

行を開始して10年目になり一つの節目の時期にきていると思います。その中で、特に3ページのデマンドタクシーに関する特筆の過去の検証については、いろいろな時期にまたがり、いろいろなデータを基にやっていくということです。例えば、病院の敷地のこういう所で乗車降車されているとか、最近ですとバス停や鉄道の乗り換えについてデータを積み重ね、こういう状況だろうということが分かっています。その中で、他のバスとのバランスや鉄道とのバランス、トータル的な事を考えていくと、今のままが良いのではないかという方向でずっとやってきているのですが、それについてまとめたものというところが、第一の目的ではないかと思います。

それでは、皆さんには事前に資料をお配りしていますので、これにつきまして、捉え方、考え方等、何かご質問等ございますか。

よろしいですか。

皆さんにはいつも議論して頂いたり読んで頂いているというところなので、まとめるまでもなく、現状や課題の捉え方や見直しの考え方もあるかと思いますが、この会議で決められることは決めていければいいと思います。

概ね本日の資料の内容でよいということでしょうか。

それでは、⑤令和元年7月のバス路線再編後における公共交通体系については、これによりよろしいということを進めていければと思います。デマンドタクシーに関する見直しの具体例はまた出てくるとは思いますが、その都度、書き直すという形で応じて頂ければいいと思いますので、よろしくをお願いします。

それでは、次に⑥福祉による移動施策についてですが、これにつきましては、丹波市地域公共交通会議の部会として位置づけられている福祉交通部会が令和2年7月9日に開催されました。その部会において関係機関の話し合いや調整等があり、若干の変更事項もありましたが、部会としてはこのような形で進めて行ってはどうかというところまでは形にしましたので、その結果を皆様にご報告をさせて頂きたいと思います。

それでは、⑥福祉による移動施策について事務局（健康福祉部）より説明をお願いします。

[福祉による移動施策について説明 資料：別添2]

(会長)

有難うございます。改めて思い出しますと、部会では結構大変な話になると思いました。いろいろな現行制度の課題等がある中で、利用料を有料にするというところが一つの課題だったと思いますし、あとはその金額をどうするかという話がありました。部会の中では、デマンドタクシーとの兼ねいで、サービスが良い分、同じ料金にすることの是非についての話があり、料金については500円にしようと思いましたが、やはり利用者からのかなり厳しいご意見がありました。この資料には載っていないのですが、相当厳しいご意見があったよう

です。

そういうこともあり、500 円の利用負担になるけれども、とりあえず当面の間は 300 円で運行するという折衷案が出てきたというところではあります。それでも、福祉交通というのか、障害者、高齢者の方の公共的な交通手段として、一つのシステムが出来上がるのではないかと意味では、一歩踏み出せたと思います。介護タクシーや福祉タクシーの利用はどうしても費用がかかると考えております。

これにつきましては何かご質問等がありますか。

(委員)

これまでの報告等や今後の展開において、思っていることをお話させていただきます。新おでかけサポートについては、新たな形として生みの苦しみはいろいろあるだろうけれども、トータル的に交通のシステムとして稼動出来るような方向になっているのではと考えます。

他の公共交通機関でデマンドタクシー等も含めて話を聞いていますと、公共交通全体の流れを効率良くよどむことなく進めていこうという考え方で、このシステムは存在しているということが大変良く分かります。それから、デマンドタクシーは 70 歳以上の方の利用が非常に多いと報告がありました。新おでかけサポートは、若年層も含めて様々な方が利用するシステムではありますが、市全体の高齢化率はこれからも上がっていくという前提からすれば、高齢者に対して通院の手段だけでなく、生活の質の向上や、身体機能の維持も含めて、生活のサポートとして大変良いシステムになっていると実感しています。ただ、まだまだ課題もあって、ハード面のシステムにはこれからという部分もありますが、それに伴って、ソフト面のネットワークという課題もあります。

システムには二つの要素があって、まず一つ目は機能面です。機能面というのは、それぞれの部門が、役割と特化した機能を発揮出来ていることです。そしてもう一つは、形があることです。形というのは、つながりが目に見えるということで、「つながり」にネットワークという言葉をあえて使っています。ネットワークについては、『「おでかけサポート」は介護度の高い方や障害者を対象にした制度であるため、デマンド（予約）型乗合タクシーの利用者層とは明確に分かれている。』と本日の資料の中に書いてあり、これはシステムを考える時にはそういう分類で良い訳で、異論はないのですが、人の身体的な機能は変化するものなので、明確に区分できるものではなく、その変化を捉えて、利用していただける移動サービスを提供することが大切だと思います。今まではデマンドタクシーに安心して乗っていたけれども、体の調子の変化があって、デマンドタクシーを利用することが大変になってきているという方もあると思います。デマンドタクシーを利用することは出来なくなったけれども、こういう手段があるという情報提供はしています。そのうえで、例えば、この交通会議とか、あるいは部会のようなネットワーク会議でも良いと思います。それはケース会議になるかもしれませんが、守秘義務等をしっかりと認識して、利用者サイドに立ち組織的に適切なかたちで、個別のケースに対応できるような会議も必要ではないかと感じました。

(会長)

有難うございます。そもそもは、デマンドタクシーを利用している人が、だんだんデマンドタクシーを利用することが難しくなってきたというところから、それならばおでかけサポートもありますという案内をすることができないかというご意見でした。おでかけサポートにシフトして頂くということをどう考えるかというのは、確かにソフトウエアとして非常に大事なことだと思います。福祉の世界で、ケース会議とかケースワークと言いますから、それぞれのケースについて、どういう対応をして、どういう流れで進めていくのかというところは非常に大事なことです。

(委員)

個別に判断しないといけないですからね。今までできていたことができなくても、こだわる方もいらっしゃるかもわからないので、どのように個別に対応するのかというスキルが必要になってくると思います。

(会長)

でも、丹波市にはそのようなスキルのある人がたくさんいらっしゃるのではないかと思います。そういう人材発掘とか、地域の資源とか、それらを含めて、これこそまちづくりかなと思いつながらご意見を聞いていました。

急にこれをやりなさいということは多分無理だとしても、第一歩だと思います。福祉部局と公共交通所管部局等が、交じり合って考えるのは非常に大事なことです。こういうかたちで意見を交わしながら、そのケースを見ながら進めていくことが非常に大事だと私も痛感しましたので、一緒に考えていきましょう。

この件について何かご質問はありますか。

ないようですので、⑥福祉による移動施策については報告のとおり進めてよろしいですね。

それでは、全体をとおして他に何かありますか。

(委員)

兵庫陸運部です。コロナ関係の国の運輸施策の報告とお願いをさせていただきます。

国の2次補正予算にて、国土交通省の138億円の感染症拡大防止対策の補助につきまして、7月10日付けで要望調査を開始しております。さらに、皆様ご承知の通りGOTOトラベル事業につきましても、7月22日に前倒で実施されることになったのですが、まだ詳細がはっきりしない部分もありご迷惑をおかけしておりますが、ご質問等あれば、我々陸運部及び近畿運輸局にご連絡頂ければと思います。

それから、お願いになりますが、バス、タクシーの公共交通の事業者の皆様は経営がかなり厳しい中で運行されています。地方創生臨時交付金の補助ですが、自治体におかれましては、単独事業で実施して頂ければ、先程の 138 億円との併給は可能ですので、是非積極的な支援をお願いしたいところです。その予算については全国で 138 億円ですので、飛行機や鉄道、船なども対象となり、補助が分散してしまうと金額的にかなり厳しい状況にもなるかと思しますので、自治体の方には是非とも積極的なご支援をお願いしたいと思います。

(会長)

有難うございます。支援があるということですので、いろいろな制度を活用できればと思います。よろしくをお願いします。

それでは、次に⑦その他で次回開催日について事務局よりお願いします。

(事務局)

次回につきましては、令和 2 年の 10 月頃を目途に計画をしております。突発的な案件等がなければ、秋頃を目途に第 2 回目の開催を考えています。

(会長)

これについてはよろしいですか。それでは、次回は 10 月か 11 月にお願いします。閉会にあたり、副会長より閉会のご挨拶を頂きたいと思います。

(副会長)

本日は本年度第 1 回目の地域公共交通会議ということで、コロナ禍の中お集まり頂き、誠に有難うございました。最後の方で福祉の移動施策の話がありました。デマンドタクシーというのは、この会議では、公共交通を補完する移動手段であるという位置付けなのですが、私は立場上、丹波市の地域福祉審議会に委員として出させて頂いており、その中で、障がいのある方、そのご家族の方、かなりの住民の方にとって、デマンドタクシーは福祉的な位置付けというような理解をされていると感じております。デマンドタクシーにしても、障がいのある方の移動手段の見直しにしても、しっかりと住民の皆さんに説明し、納得をして頂いて実施していくということが大事ではないかと思えます。これは行政に対してよろしく願いしておきたいと思えます。

以上をもちまして、本会議を閉じたいと思えます。皆様気をつけてお帰りください。

本日は誠にご苦労さまでした。